

住むまちを自ら守る 会社員も学生も**消防団員**



地域の一員として 充実の日々

丹波市消防団春日支団
竹村大樹さん(会社員)

25歳の時に地元の先輩に誘われて入団しました。活動は、火災時の初期消火に加えて、月2回の防災パトロールと年に2、3回の山火事を想定した実地訓練。半年に1、2回は火災で出動します。緊張感がありますが、絶対に必要な活動でやりがいがありますし、地域の人たちとのつながりも感じることができて充実の日々です。



20時から消防車で赤色灯を回しながら地区を一周。「小さい頃、パトロール中の父親を見て、カッコいいと思っていました」

県内全市町には、地域の防災組織として消防団が設置されており、団員は本業を持ちながら、住むまちを自らの手で守っています。火災や災害の時は、いち早く現場に駆け付けて消火・救助を実施。平常時は防火啓発活動や訓練を行います。女性や学生も所属し、イベントでの広報や応急手当の普及指導など多彩な場面で活躍しています。(県消防保安課)

県消防保安課 ☎078-362-9473 📠078-362-9915

卒業後も 地域の役に立ちたい

神戸市須磨消防団
植森三冬さん(神戸女子大学4年生)

神戸女子大学には学生で組織する消防団があり、神戸市須磨消防団に所属しています。父親が元団員で興味があったので、1年生の秋に入団しました。主な活動は防災訓練や地域イベントでの広報です。正しい防災知識を住民に届けることができた時は喜びを感じます。卒業後もできる限り地域の役に立ちたいです。



子ども向けに消防服の着用体験を実施。「参加者の笑顔を見ると、こちらもうれしくなります」



模擬天守が立つ上の城は、1999(平成11)年、国の史跡に指定されました。写真提供: いずれも洲本市

洲本城は1526(大永6)年、淡路水軍を率いた安宅氏が洲本市の三熊山上に築いたのが始まりです。その後、豊臣秀吉配下の脇坂安治が現存する総石垣の城に改修。山上の「上の城」と麓の「下の城」が合わさった構造で、上下の城をつなぐ登り石垣が防御力を高めたといわれています。今年は築城500年の記念イヤー。海からの侵攻を見渡せる戦国の要塞から、市民の憩いの場へと姿を変えた貴重な文化財を改めて見直し、次世代に引き継ぎましょう。(洲本市教育委員会生涯学習課)



階段状の登り石垣は、全国でも数例の珍しい遺構。洲本城跡の武者溜(むしゃだまり)から見るができます。

洲本市教育委員会生涯学習課
☎0799-24-7632
☎0799-26-1510

海原を望む戦国の要塞 洲本城が築城五百年

8角以上の多角形 希少な「八代オクラ」



豊岡市日高町の八代地区では50年以上前から、谷あいの1軒が自家用としてオクラを栽培してきました。一般的なものに比べて太く、断面は8角以上の多角形という希少な品種を守るため、2016(平成28)年から地区住民に種を配布して栽培を推奨。18年、「八代オクラ」の名で出荷を始めました。今では十数軒が携わり、出荷量は2t~3tと広がりを見せています。熱を入れると甘みが増す地域の恵みを、ぜひ味わってください。

販売は9月末まで。JAたじまのファーマーズマーケット「たじまんま」で購入できます。

(JAたじま日高支店(営農))
JAたじま日高支店(営農)
☎0796-42-5304 📠0796-42-4076

洲本城築城500年記念グッズのセット
「クリアファイル」(200円)、「ミニタオル」(500円)、
「マグネット3種」(1個300円)を5人にプレゼント

応募方法は7面へ

